

山口県医師会「JMAT やまぐち」活動報告

JMAT やまぐち：長門総合病院 JMAT

まずは、この度の能登半島地震に被災された皆様にお見舞い申し上げます。

さて、長門総合病院は災害拠点病院であることをご存じでしょうか？その為、山口県の要請を受けて災害超急性期に活動できる災害医療支援チーム（DMAT）を有しています。それと同時に日本医師会災害医療チーム（JMAT）にも登録しています。JMATとは被災された方の生命と健康を守り、被災地の公衆衛生および地域医療の再生を支援する目的で組織されたもので、被災地の地域医療を取り戻す目的があります。



全国から集まった JMAT
で本部ミーティング



金沢市保健所で所長、
保健師と情報共有を行う

このたび山口県医師会の派遣要請を受けて「JMAT やまぐち」として石川県で医療支援活動を行ってきました。「JMAT やまぐち」が与えられた活動内容は能登半島の1次避難所から金沢市以南のホテルや宿泊施設、約250カ所の2次避難所へ避難されてきたおよそ5200人の方たちの健康状態を把握するべく、その中から金沢市内の31施設を割り当てられ施設をまわり、必要があれば診察、処方、健康相談を行うものでした。しかしながら、ビジネスホテルなど一つ一つ訪ねる訳にもいきません。そこで、金沢市内の保健師と情報を共有、共働することが大事と考え、金沢市の保健所へ赴き情報を共有し、それを基に施設を訪ねホテルのロビーやお部屋の中で、出来る限りの診察や健康相談を行いました。能登の方たちはとても忍耐強く、話を聞いて初めて「実は、足が腫れてきて…」とか、「実は、咳が止まらなくて…」など体のつらさを教えてくれました、話を聞くという行為の大切さを感じました。



ホテルのロビーで診察と
健康相談を行った

また、あくまでもここは避難所なので最終的には出て行かなければなりません。家が全壊した90代のご夫婦は「帰る家がないのでどうすれば良いだろう」と健康面だけでなく、あらゆる心配事がかかるが何も出来ないという無力さを感じていました。地震被害の実態を肌で感じました。

金沢市内は、観光客が訪れ、通常の生活が営まれていました。その中に隠れてしまっている助けが必要な被災者の皆さんに少しでも寄り添えたかなと自問して、またどんな形でも継続して支援をしていければと思い、今回の活動を終わりました。

最後に、今回の JMAT やまぐちの派遣に伴い、勤務調整や業務分担にご協力をいただきました病院スタッフをはじめ多くの関係者の方にこの場を借りて深謝申し上げます。